

# 「私がこれを叶えるために」

(紀の川市最優秀賞受賞・和歌山県大会優秀賞受賞)

粉河中学校 1年 岡澤 怜音

「さて、続いてのニュースです。ウクライナ戦争が激化する今・・・」小学5年生の初め、ふとした時に、ウクライナ戦争のニュースを見た。その頃はぼうっと、ただ流れてくるニュースを見ていた。

時が経ち、6年生の秋、ちょうどガザ・イスラエル戦争が勃発した頃だった。そのニュースを見たとき、初めての気持ちに出会った。怒りに似た感情だった。戦争の被害に遭っている人たちのことをよく考えるほど自分のできることがどれだけ限られているかとしみじみ感じた。でも私はまだ12歳。世界平和に貢献できる仕事に就ければと思い、国際連合という国際組織を知った。アフリカからアジアなど、ほぼ全世界で地雷撤去活動や募金活動をしているという。そしてまた、国連職員という職を見つけた。どんどん調べていくうちに、私はこの仕事の大切さを知った。それと同時に、現状維持、いや、現状より劣っていく世の中には、また怒りが募っていった。

6年生の3学期、小学校は、卒業ムードへと移っていた。そんなとき、参観日に将来の夢や、こんな人になりたいといったことについて書く作文の課題が設けられた。私は国連職員についての思いを綴った。すると、担任の先生から激励された。些細なことでありながらも、私は今まで封されていた自分の夢に対する自信が解放された気がした。

参観が終わった後、またニュースを見ていた。「ガザ地区は九割が壊滅的な飢餓となっています・・・」すると母が、「全部国連に関わることやん！あんたこういう人助けたいんやろー？」と言った。

母のたった33文字の言葉ではとした。世界平和に貢献するなら、大人になってから。私はそう思っていた。しかし、日常的に使っているコンビニエンスストア、スーパーマーケット、学校での募金活動等々、今からできることがたくさんあるはずなのに、参観の時はべらべらと口達者に世界平和への貢献について語っていた。自分は、今が未来につながるのに未来しか見ていない有口無行な人間だったのである。

その日から、将来をつなげるのは今だということに気づき、募金や問題が起きている国の理解など、身近なことから始めた。しかし、1人ががんばっていてもなかなか変わらない世界のせいで自分のやっていることは意味がないんじゃないかと思い始めた時期もあった。しかし、考え方を変えたら継続しようと思う気持ちが浮かび上がってきた。

「塵も積もれば山となる」このことわざは日本人のほとんどが知っているだろう。例えば、日本全体でポイ捨てをやめようとしても、「自分が捨てないようにしても、どうせみんな捨てていくよね」という考えの人が増えるほどポイ捨て量は減らない。自分はこのような考えを持っていた。しかし、少しでも平和に近づけたり、ゴミの量を減らしたりできればという強い気持ちをみんなが持てばいいのではないかとも思いました。そして、私はみんなが平和へと近づけるよう、一致団結しあえば、平和への一歩が大きくなるということを伝えるため、その考えがひらめいてから、小学校内のユニセフ募金活動などの呼びかけをより一層強化した。

意外にも早く呼びかけの成果は出始め、募金活動の時間外でも募金を持ってくる人や、いつもより多くの額をいれたという人が日に日に増えてきた。これで自分は初めて今すべきことをクリアした。

私は今、国際組織があるのに平和にならない世の中に対する怒りや母や担任の先生に気づかせてもらったことなどを原動力にして、夢へと向かっている。これらの原動力となるものに出会う最中で、夢へと突き進むこと以外の、人生にも使える重要なことを学ぶことができた。私は今も人生の道を走っている。障壁があろうとも、突き進むことのできる勇気、決断力を手に入れた。私の夢は、国連職員。

